

■（９２）早食いならば高校生にも負けない！

九州の母校の高校生１４人が来社した。毎夏の恒例で、OB・OGの社員が案内する。昼食を食べながら懇談し、新聞社の仕事などを伝える場となる。今年も歓迎の意を込めて弁当を用意したが、先輩の記者らは、後輩のペースを気にせず、さっさと先に食べ終えた。

地震などの災害や事件、事故はいつ発生するかわからない。食堂で注文したラーメンを待っていると、会社からの呼び出しの電話が鳴る。店の人に謝って、代金だけ払って現場に向かう。記者にはそんな心配が常につきまとっている。だからなのか、いつの間にか早食いの癖がついている。

この日の懇談でも、私らは早々に箸を置いたので、ある種の「職業病」なのかもしれない。加えて、深夜まで仕事をするため、つい夜食も欲しくなる。懇談に参加した記者は、冗談交じりに後輩に訴えた。「入社から１０年太った」。同感だ。ただ、スタイルの良い記者も少なくないので、本当は各自の意志の問題なのだろう。

小学生のころ、給食をかき込むように食べて、校庭に飛び出したものだ。食事時間を減らしてもやりたい何か。職業でも趣味でも、後輩ら若者はいつか見つけてくれるだろう。（山）